



2024年5月



社会福祉法人ベテスタでは全施設の感染症対策を実施しています



与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをその人の自立に向けて支援する

令和6年度、3月に第4回松阪市生活介護事業所連絡協議会ラナに参加しました。 松阪市生活介護事業所連絡協議会とは松阪市内の生活介護事業所の職員が3ヶ月に1 回集い様々なテーマに沿ってグループワークを中心に研修など行い事業所間を超えて の情報交換等の場となっております。

ちなみに協議会の愛称「ラナ」と言うのはハワイ語で"ゆったり"と言う意味で第 一回開催時に投票を行い決定しました。

さて、今回は「コミュニケーションスキルアップ研修」接遇マナー・人材育成 soar 代表 川端有美様をお招きしての研修会が開催されました。

まず研修資料1ページ目を開くと「あなたは、何のために、このお仕事をしているのですか?」と書かれており、自分の想いを書く事からのスタートでした。

研修に参加している人それぞれの想いがあり仕事を行っていると思いますが基本に立ち返り研修に参加することが出来ました。また、研修が進んでいくと普段の対応チェックシートや現場職員が実際に経験のある事や感じることをベースにお話しがありとても分かり易い内容でした。

今回の研修は利用者様と支援員だけのコミュニケーションスキルだけではなく支援 員同士のコミュニケーション方法も大切であると言うことでした。利用者様のために より一層、良い支援を提供できるよう今後もスキルアップを図り続けたいと思います。



晴天の中、2024年4月1日に入社式が行われました。今年の春、ベテスタは2名の新入職員を迎えました。雲一つ無い清々しい晴天も、新入職員さんを明るく迎えているかのようでした。

入社式が始まると、職員も利用者さんも 舞台に注目され、新入職員のみなさんを笑 顔で迎えていました。笑顔で手を振って新 入職員を迎える利用者さんの姿も見られ、 新入職員さんも柔らかな笑顔を返してくれ るなど、温かな雰囲気で式が始まりました。 理事長の言葉、辞令交付と式が進むにつれ て、新入職員のみなさんも緊張がほぐれて きた様子でした。新入職員の方に抱負の言 葉をいただいたあと、利用者さんと職員そ れぞれの代表から、歓迎の言葉をいただき ました。新入職員のみなさんが丁寧に抱負 をお話しされていました。利用者さんや職





員からは元気で力強い声での歓迎の言葉を 送りました。

入社式に続けて、辞令交付式を行いました。 最後に、新入職員さんを迎えて、皆で初め ての記念撮影を行いました。新しいベテス タの歴史を紡ぐ素敵な記念写真となりまし た。

これから、ベテスタは、新入職員2名を迎えて職員全員で協力し合い、さらに良い施設にしていきたいと思います。今年度も、ベテスタをよろしくお願いいたします。

~新入職員さんから一言~



新家愛菜

支援員として、職員 の方々と利用者の 方々と沢山関わり楽 しく支援をしていけ るように頑張りたい と思います。



寺谷智恵子

株式会社BSKで、孫社長のもと5年5ヵ月ほど勤めさせていただきましたが、今年度より、社会福祉法人ベテスタで働かせていただくことになりました。

スローガンである、【笑顔で挨拶】を心がけ、心機一転頑張 りますのでよろしくお願いい たします。

支援員 五島 雅人

2024年3月25日~3月29日の間、能登 半島地震によるボランティア派遣要請で石川県加 賀市にある錦城学園へ向かいました。現地に着く までの間、地震による被害はどのようなものなの だろうと不安でしたが、地震から2カ月以上が経 過していた事、私が向かった先が福井県に近い加 賀市だったためか、目に見えるような被害は無く、 私が泊った場所や、周辺のお店も通常通り営業し ており、人や車の往来も多く、日常生活を送れて いるような様子がうかがえました。

派遣された場所は錦城学園の作業棟と呼ばれている、過去に自活訓練棟としても使われていた場所で、水やガス、電気が通っており、棟の中で男性側、女性側と男女が分かれて、避難された方が生活されていました。職員の方が避難されていたのは穴水町七海にある精育園の方々で、男性22名、女性18名の計40名が、3月4日から避難されたとのことでした。1カ月弱生活されており皆様落ち着いた様子で、テレビでセンバツ高校野球を見たり、ニュースやドラマを見たり絵を描い





たり、居室として割り振られている部屋で過ごされたりとゆったりとした時間を過ごされていました。錦城学園に避難された方々は見守りで生活できる方々が多く、共に錦城学園に来られていた精育園の職員の方に伺うと重度の障がいを持つ方や強度行動障害の強い方、車いすの方たちなどは別の避難先に行かれたり、入院されたりしているとのことでした。

ボランティアの方が前から何回も来ており新しい人が来ると、「どこの人?」「なんて言う名前なの?」と気さくに会話することができました。会話をする中で地震についての話はされず、その時やっているニュースやドラマなどの話題、昔の話などが多く避難先での生活が安心したものになっているのだと感じました。また、金沢市で障害者スポーツ大会に数名参加されるようで卓球の練習もされていました。前から行っていた様子で楽しそうに声を出したり、ラリーをされていました。

職員の方に震災について聞かせていただく機会があったので聞いていると、「1月の震災でもあり

北陸地方ということもあってとにかく寒かった。 精育園にある体育館や避難所などで過ごしていた が、電気が止まっていて暖房器具を使用すること もできず、利用者さんが低体温症で倒れた利用者 の方がいた。トイレを行うにも水を流せないので 凝固剤を使ったり、ビニール袋を使ったりして処 理を行わなければいけなかった。物流も止まって いて水分が足りず脱水症が怖かったこと。食事も 量が少なくならざるを得ず体重が減少していった こと。廊下の床が地割れが起こったかのように分 断されていた。居室の扉が歪んでしまい部屋に入 れない。」など実際に体験した方からの貴重な話を 聞くことができました。

地震による災害と言えば、三重県でも南海トラ フ地震がいつか起こると言われています。能登半 島地震のように、災害はいつ発生するかわかりま せん。災害が起これば、今当たり前のように行っ ていることも行えないようになってしまいます。 話を聞いて感じたのは特にライフラインについて でした。ライフラインが止まってしまえば、今の 時期は気候的に落ち着いてきましたが、夏場であ れば、エアコンや扇風機などが使えない。飲料水 の確保も難しくなってしまうので、熱中症の危険 性が高まります。冬場でも同様に低体温症の危険 性があります。そういった普段から気をつけなけ ればいけないと考えていることも災害について考 えると、抜けていってしまうこともあります。我々 は利用者の命を預かっている立場です。そういっ たことも視野に入れ災害や二次災害から利用者を 守っていくことが大切だと感じました。

実際に地震による大災害を経験した方に被害や





状況などの話を聞くのも、つらいことを思い出さ せるだけではないのか、と聞いていいことなのか 迷っていましたが、職員さんから「話をしたほう が自分たちの気も紛れるし、外から来た人と話す のは楽しいからどんどん聞いて。」と言われ、その 方の性格もあるのでしょうが、自分たちがボラン ティアに来て現地の人の助けになるとはこういう ことなんだと感じました。利用者の方たちだけで なく職員の方たちも被災された方。自分たちの生 活もあいまいな環境で利用者のために動かれてい る。その人たちの心労は、私たちでは想像もでき ません。現場では明るく利用者の方と関わってお られましたが、先のことが見えづらく不安が大き いはずです。私たちにできるのはその気持ちを少 しでも和らげ、精神的に休憩してもらうことなの だと思いました。









桃の節句が過ぎ、ようやく春めいて参りました。

今年は早く桜が咲くのかと思っていましたが、例年よりも遅い開花になり、計画を立て 直し、3月の下旬から4月の頭にかけて各グループで花見を行いました。

河津桜を見に行くグループとソメイヨシノを見に行くグループとがあり、自分のグループは他のグループと一緒に多気の天啓公園の方に花見に行きました。

利用者さんからも春が近づくにつれ、「今年はいつ花見行くの。」「花見行きたいな。」などの声が聞こえ、花見を楽しみにされている様子が伺えました。

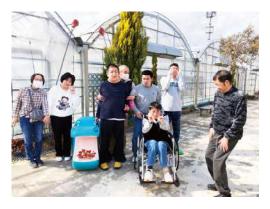
また、当日張り出されたメンバー表を見て、「花見や。」「花見行くんや。」と利用者さん 同士笑顔で話をされ、ワクワクされている様子も伺えました。

自分のグループの花見は丁度桜が咲き始めた時期で、満開ではなかったですが、桜の木の下で池を眺めたり、遠くの山の新緑を見て指さしたり、桜を見て嬉しそうに笑顔で散策したりして過ごされていました。

利用者さんが一番楽しみにされているおやつも、嬉しそうに笑顔で召し上がっておられ、 同行した職員一同ほっこりしました。

公園でゆったりと過ごしていただき、春を感じていただけたのではないかと思います。 今後も季節を感じていただける余暇活動を取り入れていき、利用者さんのいっぱいの笑 顔を見ていきたいと感じれる余暇活動となりました。

支援員 米川 圭亮







在宅利用者3月・4月イベント

今後は「みどりのたより最終号」でもお知らせいたしました通り、法人のホームページや SNS で在宅利用者様の活動の様子を発信していきますと共に、「からしだね」にも掲載して参りますので、ご覧ください。

3月14日には、きっする黒部内の「いちご屋くろべえ」へいちご狩りに出かけました。 昨年同様に、いちごを摘むレーンは指定がありましたが、ハウス1棟を貸し切りの状態にしていただきました。いちごを鷲掴みに摘み取り、口いっぱいに類張る方、遠慮がちに小さいイチゴを摘んでいるので、支援員が大きないちごを渡すとキラキラと目を輝かせておいしそうに類張る方、支援員が摘んだいちごを、あーんと大きく口を開けて類張る方、参加された皆様がそれぞれに旬のいちごを堪能されていました。帰路には、三雲の笠松河津桜ロードへ足を延ばし、車中からでしたが満開の河津桜を見てドライブを楽しまれていました。

4月11日には、「4月4日どらやきの日」にちなんで、施設の食堂でどら焼きを作りました。隠し味に醤油を利かせた、甘くて香ばしい焼き皮のどら焼きでした。焼き皮の材料を混ぜたり、あんこをはさむ工程に積極的に取り組む方、作る様子をじーっと眺めて、皮が焼けてくる香ばしい匂いに、出来上がりを楽しみに待っている方、それぞれがゆったりと過ごし、手作りのどら焼きを堪能されていました。ご家族にも、パッケージに桜のシールを貼ってお土産に持ち帰っていただきました。

今後もドライブや公園散策などの外出や季節の行事にちなんだ工作やお菓子作りなど、 利用者様に楽しんでいただける余暇活動を企画していきます。







支援員 小川 郁美





こいしろの里主任 倉井 祥基

2024年4月よりこいしろの里入所の主任になりました倉井祥基です。入社してから今まで学んできたことを最大限に活かして頑張りたいと思います。これからはより一層視野を広くもち業務に励んでいきたいと思います。まだまだ足りない所はありますが他職員と一緒に成長して行けるよう頑張ります。また、利用者さんがこいしろの里にいて良かったと思えるような施設にして行けるよう日々精進していきたいと思います。職員、利用者さんと一緒に成長して行けるような職場環境にして行けるよう目標をもって取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(主任になりました!

この度、障害者通所施設まあるの主任支援員を拝命いたしました植村雄一と申します。

2013年に全く経験の無かった障がい福祉の仕事に就き、2018年より当法人にて勤務させて頂いております。福祉の仕事は同じ業務の繰り返しではなく、毎日異なった表情や感性の人たちと触れ合い、理解するという大変難しくそして楽しい経験ができる仕事だと思います。悩んだり、無力さを痛感することも多々ございますが、仲間の職員と共にそれを乗り越えた時に得られる喜びや嬉しさを共有できる魅力があります。

私たちの仕事は誰のためなのかを常にふり返り、様々な 学びから知識を得、それを実践し経験としていきます。 そして経験を共有することで、施設利用者皆様の人生を チームでサーポート出来るよう努めて参ります。最後に なりましたが今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろ しくお願いいたします。



まある主任 **植村 雄一**